

かほだより



26-6号
H27. 1. 19

長野県伊那家畜保健衛生所
TEL: 0265-72-2782, 090-5444-0970
Fax: 0265-72-2765
E-mail: inakachiku@pref.nagano.lg.jp
住所: 伊那市西町 5764
伊那諏訪家畜産物衛生指導協会
TEL&FAX: 0265-76-8086

酪農生産性
向上対策事業

第2回目のバルク乳スクリーニング検査に

ご協力ありがとうございました!

牛ウイルス性下痢ウイルスの遺伝子検査

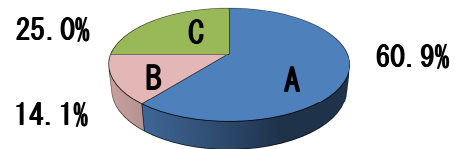
管内では、92農場全て検出されませんでした。
県内では、1農場で検出され、全頭検査の結果持続性感染牛を確認しました。

細菌検査

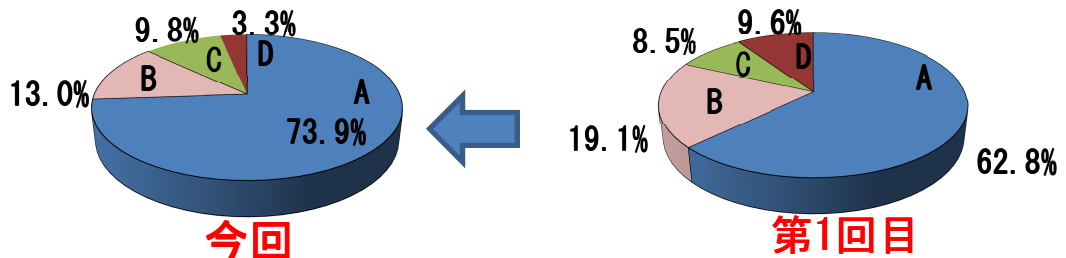
評価 A: 目標、B: やや多い、C: 多い、D: 非常に多い

★ 体細胞数

約8割の農家がAまたはBランク
(30万/mL以下)でした。



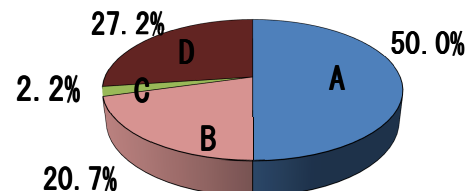
★ 生菌数



約3割がB、C、Dランク(3千CFU/mL以上)でした。
前回(第1回目)の検査は約4割がB、C、Dランクでしたので、1割がAランクに改善しました。特にDランク(1万CFU/mL以上)が9.6%から3.3%に減少しました。

★ 黄色ブドウ球菌 (SA)

約5割が陽性(B、C、D)ランクでした。
前回の検査に比べAランク(陰性)農場が
5農場増加しました。



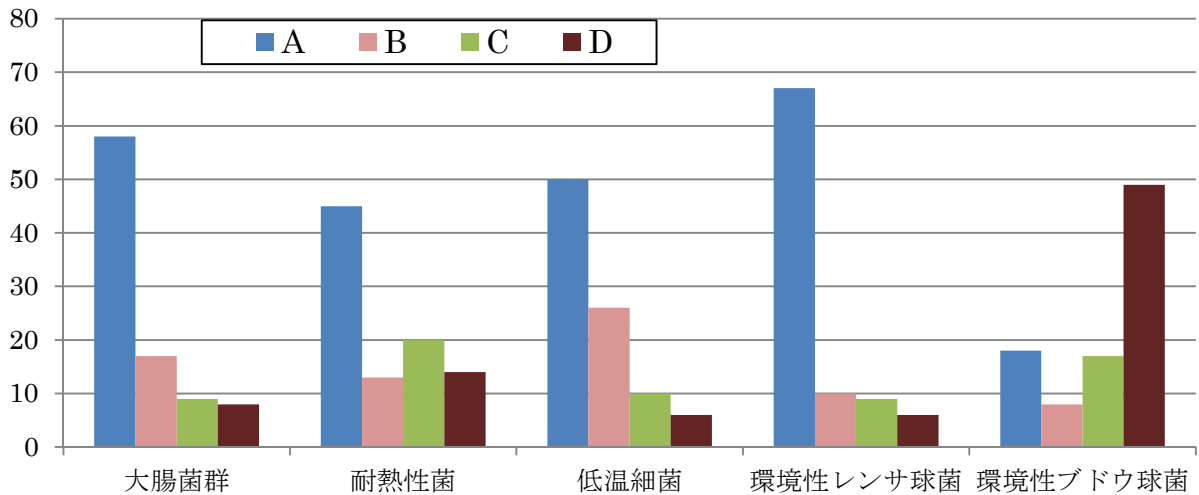
SAへの対応

～ 菌数の多少にかかわらず対策をとりましょう ～

全頭の細菌検査 → 感染牛(感染分房)を特定
→ 当面の対応(搾乳順序を最後にする等) → 淘汰、乾乳治療、経過観察など

※個体乳の検査を行っても、SAが検出されない場合があります。これはSA感染牛であっても、排菌していない場合があるためです。体細胞数が高い牛は感染の疑いがあります。

★ 環境性の細菌



大腸菌群、耐熱性菌、低温細菌は、約半数がAランク（陰性、50CFU/mL以下）でした。環境性レンサ球菌は、約7割がAランク（1,200CFU/mL以下）でした。環境性ブドウ球菌は、Dランク（400CFU/mL以上）が約5割ですが前回より1割減りました。

対応

環境性ブドウ球菌、環境性レンサ球菌が多い場合

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌が検出されても、牛がこれらの菌に感染しているとは限りません。これらの菌は環境に由来するので、菌が多数検出された場合は、環境や搾乳衛生に問題があり、環境性乳房炎に罹る可能性が高いと考えられます。

牛床の汚れや乾燥状態を確認し、乳房や乳頭の汚れを少なくしましょう。また搾乳手順や搾乳方法を見直し、とくに乳頭の清拭方法をチェックしましょう。

大腸菌、耐熱性菌が多い場合

これらが多い場合は、搾乳機器の洗浄殺菌に問題があります。搾乳システムの洗浄状態やライナーゴムの劣化をチェックしましょう。大腸菌数が多く、耐熱性菌が少ない場合は、搾乳衛生の不良が考えられます。搾乳手順を再度検討しましょう。

低温細菌が多い場合

バルク乳の冷却不足やバルクタンク・ミルクラインの洗浄不足が考えられます。きちんと冷却されているかチェックしましょう。

マイコプラズマ検査

全農場陰性でした。

☆ 第1回より全体的に良くなっています。

B~Dだった項目は目標Aに近づくようチェックしてみましょう。

SA感染牛の確認等を行いたい方は家畜保健衛生所までご連絡ください。

問い合わせ・連絡先 伊那家畜保健衛生所 環境指導課（担当：青木一郎、久保田和弘）

《 飼養衛生管理基準を守り、引き続き防疫対策に万全を期していただくようお願いします 》